

第23回

ロシア帝国

監修・講師
中嶋 毅

学習のねらい

中世ロシア世界で勢力を拡大したモスクワ大公国を引き継いで、ロシアでは17世紀初めにロマノフ朝が成立した。ロマノフ朝の下で専制君主制が強化され、18世紀にはロシア帝国が成立した。ロシア帝国は近隣諸国と競いながら世界最大の領土を有する大帝國へと成長したが、近代世界の進展のなかでロシアは帝国の近代化を迫られていった。ロシア帝国の発展と帝国が抱えた問題を、ヨーロッパ列強との関係を通して考える。

- ・ <ロシア帝国の拡大>
ピョートル1世 北方戦争 エカチェリーナ2世
- ・ <東方問題とロシア> クリミア戦争 ロシア・トルコ戦争
サン・ステファノ条約 ベルリン会議
- ・ <帝国の近代化>
アレクサンドル2世 農奴解放

■■■ ロシア帝国の拡大 ■■■

17世紀末にロシアの君主（ツァーリ）に即位した**ピョートル1世**は、西欧諸国にならって軍備の増強や産業の振興をはかり、国力の充実に努めた。対外的には、1700年から20年間に及ぶスウェーデンとの北方戦争に勝利して、北東ヨーロッパでの覇権をにぎった。この間にピョートルは、「西欧への窓」として新首都ペテルブルクを建設した。**北方戦争**に勝利した1721年、ロシアは帝国となった。これ以後ロシアは東欧世界の強国として、ヨーロッパの国際舞台に現れることになった。18世紀後半に帝国を統治した**エカチェリーナ2世**は、ポーランドを分割するとともに、南方でオスマン帝国と戦って自国の領土を拡大した。

■■ 東方問題とロシア ■■

不凍港を求めて黒海への進出を目指したロシアは、ロシアの拡張を牽制しようとするイギリスとフランス、オスマン帝国領のバルカン半島への進出を狙うオーストリアとの対立を深めていった。1875年にオスマン帝国下のボスニア・ヘルツェゴヴィナで反乱が発生し、翌年ブルガリアで反オスマン蜂起が起きると、ロシアは1877年にオスマン帝国と戦争を始め（**ロシア・トルコ戦争**）、これに勝利してサン・ステファノ条約を結んで勢力を拡大した。

しかしオーストリアとイギリスがこれに反対したため、ドイツのビスマルクが仲介に乗り出して**ベルリン会議**が開かれた。その結果、新たにベルリン条約が結ばれて、バルカン半島でのロシア勢力の拡張は抑えられた。

■■ 帝国の近代化 ■■

クリミア戦争の敗北後、ロシア皇帝アレクサンドル2世は、1861年の**農奴解放令**をはじめとする体制改革に着手した。地方行政改革、司法改革、軍制改革、教育改革など多方面におよぶ改革は、「大改革」と称された。これらの諸改革は、西ヨーロッパの諸制度を取り入れて帝国の国力強化を目指した「上からの」近代化政策であった。専制君主制の枠組みを維持しながら西欧的近代化を進めようとする政策は、伝統的なロシア社会に混乱を招くことになり、「大改革」は不徹底なものにおわった。

改革の停滞に不満を抱く知識人の一部は急進化し、その中からテロリズムで体制を転覆しようとするグループも現れた。19世紀末にはロシアにおいても本格的な工業化が進んだが、貴族・資本家層と工場労働者・農民とのあいだの格差は大きく、反体制的な知識人は社会変革を求める動きを次第に活発化していった。

考えてみよう 調べてみよう

- ピョートル1世とエカチェリーナ2世という二人の皇帝の生涯を調べてみよう。
- サン＝ステファノ条約とベルリン条約で定められたバルカン半島の勢力範囲の変化を、地図の上で確認しよう。
- 19世紀ロシアにおいてどのような改革が実施されたのか、調べてみよう。